

第62歩

「市場水族館」

山の上の水族館として多くの人々に親しまれてきた「新屋島水族館」が去る4月6日（日）で一旦営業を終え、リニューアルのために約2年間の休業に入っています。この水族館は、昭和44年にその名も「屋島山上水族館」として開館し、世界初のアクリルパネル製ドーナツ型大型回遊水槽を導入するなど、先進的な展示で注目を集めました。私は当時10歳。早速連れていってもらい、ウキウキと高揚した気分になったことを覚えています。平成18年には老朽化のため、館の存続が危ぶまれていたところ、水族館用大型アクリルパネルで世界トップシェアを誇る「NIPPURA（株）」に運営が引き継がれました。リニューアルで、大型回遊水槽はなくなってしまいましたが、国内では2カ所で見られないアメリカマナティの展示や、「世直し侍」が登場する劇仕立てのイルカライブなど、ユニークな取り組みで多くの来場者を魅了してきました。しかし、施設の更なる老朽化は避けられず、平成26年には一旦閉館の方針が示されましたが、存続を求める声を受け撤回され、以降も年間約20万人の来場者を維持してきました。

この施設は、子どもたちが水生動物と触れ合える市内唯一の施設であり、その存続問題は、高松市の課題でもあります。このような状況の中で、新屋島水族館を、国の「ふるさと融資」という制度を使ってリニューアルすることとし、合わせて本市と運営主体である「屋島水族館（株）」の間で、屋島山上の集客施設の充実や子供達の屋島に接する機会の創出など、4つの連携項目について「屋島活性化に向けた連携協定」を締結しました。

今回のリニューアル工事では、開館時からの目玉であった大型回遊水槽のコンセプトを復活し、親会社である「NIPPURA（株）」の技術を活用することで国内では他には見られない展示方法を導入する予定と聞いています。また、休館期間中も生き物たちとの触れ合いを継続するために、中央卸売市場の旧青果棟の施設を活用して臨時的「市場水族館」が開設されました。ここでは、コツメカワウソやペンギン、瀬戸内海に生息する魚などが展示され、子どもたちに人気の場所となっています。ただし、アメリカマナティやイルカについては、屋島山上でお留守番。人気者との再会は、しばらくお待ちください。

